

テンヤタチウオ四大釣法

すべてで素直に釣れる浜名湖沖

指幅5本の大型も顔を出した。5月に本格化すると指幅6〜7本のドラゴン級が頻りに釣れ、このサイズでも小さく見える。ドラゴン出現率は東京湾をしのぐかもしれない

その一 【微速巻き】

●常連さんの釣法はこれがスタンダード。当日はフォースマスター600の「さそい速」5で決まった

その二 【ストップ&ゴー】

●ハンドルを巻いては止めて、を繰り返す。ハイギア仕様のフォースマスター600は手巻きリール同様の巻き方で簡単にヒットした

その三 【ジャーク&ステイ】

●ワンピッチジャークを大小調節しつつ止めの間でアタリを出させる。当日は強烈な跳ね上げアタリが連続した

その四 【バイブレーション】

●東京湾の定番釣法は浜名湖沖でも効果抜群。ただしタナが幅広いためリサーチは手際よく



◎竿はサーベルマスターエクスチューンテンヤ82MH180と91H173を使用

フォースマスター600DH

◀【富所さんの設定】ヤリトリ時の「ファイト速」は15。微速巻きで使う「さそい速」は5。フッキングモード、スピードロックともにONで使用した

◀水深150メートルを狙う浜名湖沖ではフォースマスター600の糸巻き量がジャストサイズ

▼タナは140メートル前後。タチウオを掛けたらたっぷりとファイトを楽しめる



【フォースマスター600DH】

◎直感的に巻き上げ速度を調整できるタッチドライブスピードロック、ワンタッチで電動合わせを可能にするフッキングモード、さそい速とファイト速の中間速2段階設定など、タチウオに役立つ機能満載の最新小型電動リール。
◎SPEC ギア比=6.5、最大ドラグ力=10kg、自重495g、糸巻きPE=2号-300m、3号-200m、最大巻上長=67cm/ハンドル1回転、ハンドル長=55mm、実用巻上持久力=6kg、最大巻上速度=195m/分、本体価格=9万5200円

浜名湖沖のタチウオは5〜6月に開幕し翌年の2月いっぱいまで終わるのが通例。取材時の4月はシーズンオフのはずだが、盛期を彷彿させる良型も釣れた

「水深160メートル、反応は140〜150付近に出ています。30メートルは探ってみてください」
船長のアナウンスで開始。苦戦を覚悟しての1投目、予想に反して明確なアタリが出て1本目のタチウオが上がる。
「初めての場所で釣れた最初の魚は、何ごとにも代え難い感動があります」
全国を釣り歩く富所さんをして、初の浜名湖沖タチウオである。

魚の活性は高いようで続けて食ってくる。アタリは素直で、掛け損してもアタつてくるため空振りも少なく、深くても効率よく釣りができる。
「こうなると色々試したくなります」
富所さんは竿をサーベルマスターエクスチューンテンヤ91H173に交換し、東京湾のドラゴンメソッド・省エネバイブレーション釣法を試す。
すると、反応の中ならどこでもアタつて掛かってくる。

「次はジャーク・アンド・ステイです」
深い分しっかりシャクって長めに止めると、教科書どおりの跳ね上げアタリと飛び込むアタリが出る。
「では、ストップ・アンド・ゴー」
竿を止めたままフォースマスター600のハンドルを2〜3回転(約1.5〜2メートル)回し、タチウオの体長分誘い上げて止めると、次にハンドルを巻いた瞬間ドン！とフッキング。
「常連さんがやっている微速巻きはさそい速5でいきましょう」
深場で幅広く出ている反応を効率よく探ることができる微速巻きは浜名湖

沖のメイン釣法。そのままでも釣れるが、小さなアタリが出たらハンドルで1回、2回と巻きを加えて追わせてやると、面白いように掛かる。
船長や常連さんによると、テンヤの釣り方とタチウオの食いは当日とシーズン中でそれほど変わりが無いそうだ。「浜名湖沖のタチウオはタナが深い反面、素直で釣りやすいですね。これで5〜6月にはドラゴン級が中心で、指幅7本を超えるスーパードラゴンも出るというのですから驚きです。東京湾や大阪湾で悩んだ釣り人は、ぜひ浜名湖沖で本来の楽しさを思い出し、癒されてほしいですね」
船長に再訪を約束して船を降りる富所さん。東京湾と大阪湾の中間に新たなドラゴンスポットを見出した、実り多い釣行であった。



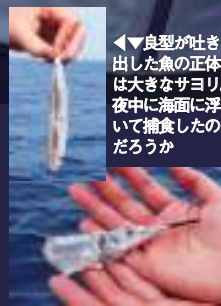
▲微速巻きで連釣。当地の見本を示してくれた常連さん



▲メタルジグ、のちテンヤで大型を釣り上げた



▲テンヤで良型。このほかテンビン仕掛けで楽しむ人も



◀良型が吐き出した魚の正体は大きなサヨリ。夜中に海面に浮いて捕食したのだろうか



▲釣り人目線で楽しませてくれる釣華丸の川島弘船長